

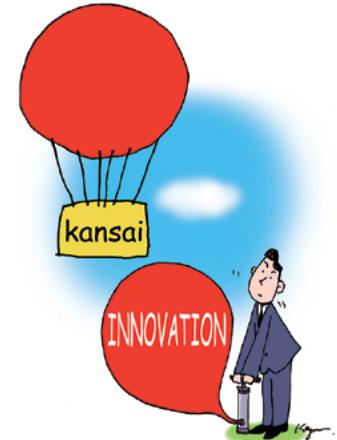


## 木股 昌俊

KIMATA Masatoshi

クボタ社長  
関経連副会長

# イノベーションにより 活力ある関西へ



この度、副会長を拝命し、科学技術・イノベーション委員会を担当いたします。当社は関西で生まれ、育てていただいた会社ですから、恩返しといいますか、お世話になっている関西のお役に立ちたいとの思いからお受けしました。

残念なことに、現在、関西の高校や大学を卒業されても、関東の企業に就職される方が多く、逆に関東から関西の企業に就職される方は少ないと聞きます。この状況を変えるためには、夢を描き、その夢に向かってイノベーションを武器に世界の市場に挑戦できるような、働きがいのある企業が関西に多数存在するようにしていくことが必要ではないでしょうか。魅力ある元気な企業があれば、国内外から関西への注目も高まるでしょう。当社は社員がものづくりを通じて、イノベーションに挑み続けています。私の副会長としての役割は、そのノウハウを生かし、関西の産業や企業を元気にすることと認識しています。イノベーションこそが、関西活性化のキーワードであると考えます。

イノベーションとは、未来に向けたさまざまな変化が起こるなかで、人類にとってるべき豊かな姿と現状との間に生じたギャップを埋めていくための一つの手法だと考えます。例えば、日本の農業は今、高齢化等により担い手の不足や、輸入農産物との競争など多くの課題を抱えています。こうした農業をめぐる課題を含めた現状と、本来あるべき姿とのギャップを埋めることが、当社のイノベーションの命題です。そこで、当社では自動運転などの技術で機械を進化させることはもちろん、機械に頼らず大きくコストダウンできる営農方法の開発や輸出競争力があり付加価値のある農産物の栽培などにも挑戦しています。現在、国家戦略特区に指定されている兵庫県養父市に実験農場クボタ

ファームを作り、「鉄コーティング直播栽培」という田植えが不要でコストを3~4割下げられる農法の確立や、糖度の高いトマトの栽培などに挑戦しています。養父市で得られた成果を、今後、全国に水平展開する予定です。

また、松本会長の掲げる「luck・ウエスト」の視点に関連した取り組みを紹介しますと、日本と同じく稻作が盛んな東南アジアにおいて最新の機械や農法を広めたり、現地の人を日本に招いてさらに上のレベルの研修を行ったりと、人的交流を含め、アジアとの結びつきを強化しています。こうした関西とアジアの交流のきっかけとなるのもイノベーションの役割ではないでしょうか。

私たちメーカーの基本は、ものづくりと研究開発です。当社は、現地のニーズにあわせた製品が開発できるよう、国内外に生産・開発の拠点を持っていますが、イノベーションの基となるIoT、自動運転、電子制御といった付加価値の高い研究開発は、すべて関西の拠点で進めています。その研究や試作を一心同体となってサポートしていただいている取引先の多くは関西の企業です。関西には、しっかりとしたものづくりのベースがあると確信しています。ですから、研究開発の拠点を関西以外の地に移すことは考えたことはないですし、今後、関西での研究開発をますます充実させたいと思っています。

工場での勤務が長かったこともあり、私は刺激あふれるものづくりの現場が大好きです。そんな、ものづくりとそこから生まれるイノベーションを通じて、関西の活性化のために貢献していきたいと考えています。  
(談)